

	著書、学術論文等の名称	単共 著別	発表の 年月	発行所、発表雑誌等又は発 表学会等の名称	概 要
1	(学術論文) (原著) Ueyama H, <u>Kusumoto C</u> , Nagahara A, et al. Gastric epithelial neoplasm of fundic-gland mucosa lineage: proposal for a new classification in association with gastric adenocarcinoma of fundic-gland type	共著	2021 年	<i>Journal of Gastroenterology</i> , 56(9):814-828, 2021	論文全体の概要;胃底腺型胃癌は、免疫組織学的に発現するコアタンパク質の違いによって胃底腺型腺癌と胃底腺粘膜型腺癌に亜分類されることを提唱した。これらの違いによって悪性度を含めた腫瘍の生物学的特性に差が見られる可能性も示唆された。
2	(学術論文) (症例報告) 在留外国人の大腸アニサキス症例～過去約 30 年間における日本人の大腸アニサキス症報告例の文献的考察を含めて～ <u>楠本智章</u> , 伊藤百香, 武 進	共著	2021 年	消化器内視鏡, 第 33 巻, 第 12 号 1900-1905, 2021	論文全体の概要;アニサキス症は主に胃アニサキス症が多く、大腸アニサキス症はまれとされる。特に外国人症例はこれまでに報告がない。本邦におけるこれまでの報告例と合わせて検討した。
3	(学術論文) (原著) Iwamuro M, <u>Kusumoto C</u> , Okada H, et al. Endoscopic features of oxyntic gland adenoma and gastric adenocarcinoma of the fundic gland type differ between patients with and without <i>H. pylori</i> infection: a retrospective observational study	共著	2022 年	<i>BMC gastroenterology</i> , 22(1):294, 2022	論文全体の概要; <i>Helicobacter pylori</i> (以下, HP) 陰性胃がんとされる胃底腺型胃癌は同菌の感染者や既感染者でも発見される。胃底腺型胃癌における同菌の感染有無での内視鏡的特徴について、後方視的に検討した。
4	(学術論文) (原著) Nakayama H, Nakahara M, <u>Kusumoto C</u> , et al. Inactivation of axon guidance molecule netrin-1 in human colorectal cancer by an epigenetic mechanism	共著	2022 年	<i>Biochemical and Biophysical Research Communications</i> , 30(611):146-150, 2022	論文全体の概要;軸索誘導因子 netrin-1 は腫瘍の増殖・転移にも関与するとされる。本研究では、大腸癌の培養細胞および外科的切除組織において同物質が低発現していることを見いだした。
5	(学術論文) (原著) Iwamuro M, <u>Kusumoto C</u> , Okada H, et al. Lesion size, elevated morphology, and non or closed-type atrophy are predictive factors for gastric adenocarcinoma of the fundic gland type rather than oxyntic gland adenoma	共著	2023 年	<i>Journal of Gastrointestinal Oncology</i> , 14(2):554-562, 2023	論文全体の概要;粘膜下層浸潤を来した胃底腺型胃癌は、粘膜内病変(oxyntic gland adenoma)と比して、腫瘍サイズや形態および胃粘膜萎縮程度が診断の予測因子になることが明らかとなった。
6	(学術論文) (症例報告) 比較的広範囲に認められた, <i>Helicobacter pylori</i> 未感染早期胃癌の 1 例 <u>楠本智章</u> , 仲村陸斗, 神原 健	共著	2023 年	医療工学雑誌, 第 17 号, 1-6, 2023	論文全体の概要; HP 感染率低下と共に HP 未感染胃がんが相対的に増加している。本症例は、範囲診断に苦慮した HP 未感染早期胃がんの 1 例である。
7	(研究会発表) (症例検討) 増大傾向を示した十二指腸腫瘍の 1 例～この症例、今後の方針は？～ <u>楠本智章</u>	単独	2024 年	第 9 回 Fukuyama Gut Seminar, 福山, 2024	発表内容の概要;内視鏡的に増大傾向が確認できた十二指腸腫瘍症例に関して、専門家が集う研究会にて症例検討を行った。
8	(学会発表) 新規大腸がんバイオマーカーの可能性を探る ～軸索誘導因子 netrin-1 の発現およびエピジェネティック制御解析の検討～ <u>楠本智章</u> , 中山寛尚, 神原 健	共同	2025 年	第 124 回日本消化器病学会中国支部会(ワークショップ), 岡山, 2025	発表内容の概要;軸索誘導因子 netrin-1 が組織中のみならず患者血清でも低下していることが判明した。これまでの研究成果および今後の展望について発表した。